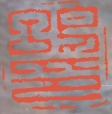


# 糺の森



糺の森ぐらりぐらり 第13回  
「山城原野の原植生を  
守り続けるために」  
糺の森NEWS／催事案内  
表紙写真／井上隆雄

Vol. 14

糺の森財団会報  
平成28年10月1日発行  
通号62号

## 事務局だより

### 会議報告

平成28年4月1日より9月30日まで

### ◆第14回理事会

月日：平成28年6月2日

場所：主たる事務所  
出席：理事 監事

#### 決議事項

- ① 自平成27年4月1日至平成28年3月31日 事業報告の件
  - ② 自平成27年4月1日至平成28年3月31日 決算の件
  - ③ 定時評議員会招集の件
  - ④ 顧問就任の件
- 報告事項…
- ① 理事退任の報告
  - ② 理事長および専務理事の職務執行の報告
  - ③ 会員数の報告

### ◆第8回評議員会

月日：平成28年6月23日

場所：主たる事務所  
出席：評議員

#### 報告事項

- ① 評議員の辞任の件
  - ② 自平成27年4月1日至平成28年3月31日 事業報告について
- 決議事項…
- ① 自平成27年4月1日至平成28年3月31日 決算について
  - ② 定款一部変更の件

## 会員数報告(平成28年8月31日現在)

賛助会員	78件
団体・法人会員	64件
個人会員	1,192名
合計	1,334件

### 新入会員ご誘致のお願い

多くの方に世界遺産糺の森の保存にご理解ご協力をいただきたく願っております。新入会員のご誘致をよろしく願っています。ご連絡いただければ「入会案内パンフレット」をお届けいたします。

### ご寄付のお願い

平成27年度も多くのご寄付をいただき、糺の森の整備・神社建造物の修復を実施することができました。ありがとうございました。平成28年度も引き続きましてご支援をよろしく願っています。同封の振込用紙をご利用ください。

## 催事案内

遊び、学ぶ、糺の森のつどいあれこれ

### 「秋の」糺の森コンサート「音の森」

月日：10月15日(土)、11月12日(土)  
時間：午後2時～3時(予定)  
場所：河合神社(糺の森南側)拜殿  
参加：無料(自由)

※爽やかな季節に  
森で音楽を楽しむ  
「秋の」コンサート。  
ご家族やお友達と  
気軽にどうぞ  
お越しください。



### 糺の森文化講演会〈秋講座〉

月日：12月上旬  
場所：下鴨神社 参集殿(予定)  
参加：無料

詳細はホームページをご覧ください。

- 糺の森財団 [www.tadasunomori.or.jp](http://www.tadasunomori.or.jp)
- 下鴨神社 [www.shimogamo-jinja.or.jp](http://www.shimogamo-jinja.or.jp)

お問い合わせは糺の森財団事務局まで ☎075-781-0010

## 下鴨神社だより

### 行事日程

- 平成28年下半期行事
- 10月9日 えと祈願祭 (午後1時～)
- 12月12日 お菓酒神事 (午後1時半～)
- 平成29年上半期行事
- 1月1日 歳旦祭 (午前6時～)
- 1月4日 蹴鞠初め (午後1時半～)
- 1月8日 成人祭 (午後1時半～)
- 1月10日 初えと祭 (午前11時～)
- 2月3日 節分祭 (午前10時～)
- 3月3日 雛流し (午前10時半～)

編集・発行

公益財団法人  
世界遺産賀茂御祖神社境内糺の森保存会事務局  
〒606-0807 京都市左京区下鴨泉川町59 賀茂御祖神社内 ☎075-781-0010  
[www.tadasunomori.or.jp](http://www.tadasunomori.or.jp)

## 糺の森

題字  
賀茂御祖神社  
新木直人宮司

糺の森財団

評議員 堀場 厚

(株式会社堀場製作所  
代表取締役会長兼社長)



京都という街は、建物や自然が織り成す落ち着いた歴史的景観をはじめ、伝統技術によるモノ作りの精神、日本食のみならず世界各国の料理に精通した食文化などが海外から高く評価されています。米国の旅行雑誌の読者投票で平成二十六年から二年連続で世界の人気都市第一位に輝いたことも記憶に新しく、「京都ブランド」の確立に大きな弾みがつきました。

下鴨神社の糺の森一円が豊かな自然を残し、神事を通じて先人の心と技が継承されていることは、京都の価値を一層高める事につながります。この下鴨神社で平成二十七年四月に行われた第三十四回式年遷宮はその集大成と言える祭事です。二十一年に一度の遷宮を千年もの間続けていくことができ、たのは人々の弛まぬ努力によるものでしょう。

企業も若返り、つまり再生を繰り返すことで活性化し、生産性を向上させていきます。当然、企業の文化や価値観は守り続けますが、匠の技術を若い技術者へ伝えていくことは、モノ作りを続ける上で欠かすことが出来ません。移転や再整備、組織の再構築は言うなれば「技術の遷宮」です。

国宝、重要文化財建造物の維持管理や糺の森の環境保全活動にも、企業の活動と同じように日頃からの積み重ねが必要で、二十一年に一度力を合わせただけでは、永い年月をかけて築かれた伝統を守り伝えることは叶いません。法人会員、個人会員の皆様方には、今後も変わらぬお力添えをいただきますよう心よりお願い申し上げます。

# 山城原野の原植生を 守り続けるために

近畿大学非常勤講師  
**田端 敬三**

数千年前の京都盆地は、ムクノキ、エノキ、ケヤキ中心の落葉広葉樹林に覆われていたことが、花粉分析により推定されています。しかし、京都市内の平野部は市街化され、古来の森はほぼ全て失われました。そうした中、糺の森には、ムクノキ、エノキ、ケヤキの、高さ30メートル程にもなる、目を見張る程の巨樹が数多く立ち並び、古代の山城原野の原植生の面影を、京都で唯一今なお残す、非常に貴重な場所となっています(写真1)。

ムクノキ、エノキ、ケヤキはいずれも陽樹(日向でしか生育できない樹木)です。糺の森の樹々が成長するに伴い、次第に林内は暗くなり、やがて主役が陰樹(多少日陰でも



1. 糺の森参道沿いのムクノキの巨樹

糺の森  
ぶらりぶらり  
第十三回



2. 森の上層を覆っていた大木が倒れたことにより形成された林冠ギャップ

生育可能な樹木)の常緑広葉樹へと取って替わられそうになります。しかし、その度に、森のすぐ側を流れる賀茂川、高野川の氾濫が発生し、森の上層を覆う大木が何本も倒され、下層まで強い光が射し込むようになります。このような林冠ギャップ(写真2)と呼ばれる環境が、まとまった広さで形成されると、ここでは、ムクノキ、エノキ、ケヤキの幼木が順調に育っていきます。こうして札の森では、ムクノキ、エノキ、ケヤキが中心の落葉広葉樹林の植生が維持されてきました。

しかし、昭和9年の室戸台風を契機として、鴨川の断面の拡張、川底の掘り下げがなされました。勿論、洪水が頻発しては、京都市民は安心して生活することができません。しかし、この河川改修の結果、ムクノキ、エノキ、ケヤキの幼木が育つために必要である大規模な日向が、札の森内に形成されなくなりました。札の森の本来の植生、ムクノキ、エノキ、ケヤキが優占する落葉広葉樹林の姿を、今後も守り続けてゆくためには、森の現状の正確な把握が必要となります。そこで、札の森全域において、幹直径が10センチ以上である3千数百本の樹木について、樹種、生育地点、樹高と幹の周囲長を記録するといった、大規模な調査を定期的に行って参りました。京都大学名誉教授、京都学園大学教授の森本幸裕先生が、平成3年に初回の調査をされ、その後を引き継いで、第二回を平成14年に、第三回を平成22年に各々実施しました。こうした調査により、札の森の植生のその時々での様子、また長期間での変化が明らかとなってきます。

# 札の森 NEWS

発行所 公益財団法人  
世界遺産賀茂御祖神社境内  
札の森保存会事務局  
www.tadasunonori.or.jp

## 助成事業 文化財建造物修理

### 重要文化財「預屋」 保存修理工事実施中

只今、本殿に程近い中門西廻廊に接続するように建つ、重要文化財「預屋」の保存修理工事を実施しております。この度の修理は、平成21年より継



預屋に素屋根が組まれる

続して行ってきた、国庫補助対象となる、国宝・重要文化財社殿23棟保存修理事業の最終年度工事として約40年ぶりに檜皮屋根の葺き替え、木部や建具、畳、銚金具などの補修、新調などを行います。預屋は桁行5間、梁間3間、入母屋造の檜皮葺きで、古くは昼夜奉仕をする神職の控え所としての機能を持っています。現在の預屋は寛永6(1829)年に造替された後、修理が重ねられてきましたが、今回、屋根裏から大正3年と昭和11年に修理が実施された事が分かる棟



腐朽した檜皮屋根

棟札が入った箱



札が見つかりました。昭和9年の室戸台風で屋根が大破する被害を受けたと記されており、他の社

3. ムクノキの芽生え



また、ムクノキ、エノキ、ケヤキの巨樹の保全に加えて、札の森の将来を見据え、これらその後継樹の育成も図る必要があります。そこで札の森の林床(森の地表面)での、これらの樹種の芽生えの生育状況についても調査を行っています。しかし、現在、残念ながらムクノキ、エノ

5. ケヤキの芽生え



6. 札の森の林床で多数見られたアラカンの芽生え



4. エノキの芽生え

順調ではなく(写真3、4、5)、対して、日陰に強い常緑広葉樹のアラカンの芽生えの発生が多数見られる結果となりました(写真6)。こうした調査を今後も継続し、それによって、この貴重な札の森が、これからも本来の姿で佇み続けるために、有効となる手立てを見出すことができれば、と思っております。

## 助成事業 史跡境内整備

### 史跡御蔭神社 境内整備事業

去る平成27年10月7日、国史跡への追加指定を受けた摂社御蔭神社境内の整備の初年度事業として、参道の入り口2カ所に標柱と説明板が設置され、5月10日には近隣の方々や関係者が参加して除幕

殿と同じように内務省直轄により修繕されたことが確認出来ました。屋根葺き替え工事は年内に完了し、素屋根も解体される予定です。



檜皮がめくられた屋根

式が執り行われました。今後は参道や神社周辺の景観を保ちながら、経年や雨水の浸食による崩落などの危険防止を図る環境整備事業を継続して実施する予定となっています。かねてより実施中の札の森(神宮寺跡)整備と同時進行になりますので、今後は併せてご報告してまいります。



御蔭山入口の標柱と説明板

### 世界遺産糺の森文化講演会 開催

平成28年8月15日(月) 於・下鴨神社参集殿

今夏も一昨年、昨年に引き続き小説家、エッセイストまた写真家として活躍中の、夢枕獯氏をお迎え致しました。今回は「神々の山嶺を旅する」と題して、昨年3月映画の撮影中のヒマラヤを陣中見舞いに訪問された時の、エピソードを中心に講演頂きました。お話頂いたのは以下のような内容でした。



糺の森文化講演会

『今秋陰陽師を書いて30年になるので、陰陽師「蟬丸」というタイトルで、記念のCDブックの様な物を発売の予定である。蟬丸の琵琶に合わせて縄文の神々が、逢坂山の闇の中に立ち現れてくるという短編を書き下ろした。先程お聞き頂いたのがそのCDの音楽で現在は制作途中である。』  
「この近況のお話から始まり、続いて本年3月12日に封切られた映画、「神々の山嶺」の原作者として、エベレストのベースキャンプ付近で撮影が行われていた現地への陣中見舞いに、友人達と訪問された時、様々な危険に遭遇した道中のことなどを詳しくお話頂き、まるで現地にいるかのような雰囲気になりました。  
標高5400メートルを超え、酸素は平地の半分くらいしか無い過酷な状況の中で行われた厳しい撮影の様子や、ネパールの人々の暮らし向きなど数多くのエピソードを、ご自身が撮影された臨場感溢れる美しくて厳しい景色や、現地の人々の表情などを、ユーモアを交えて語って頂きました。」

### 第26回 螢火の茶会と糺の森納涼市

裏千家淡交会様はじめ多くの皆さまのご奉仕により、今年も「螢火の茶会」を6月11日(土)に開催いたしました。境内の細殿・橋殿に設けたお茶席には、財団法人などの招待客約800名の方が参席。また神楽殿では雅楽や箏曲の演奏、雅楽舞・王朝舞の実演、そして夕暮れ時からは森の中の螢の舞いを約4,000名の観光客が楽しみました。  
同時に楼門前表参道にて開催された「糺の森納涼市」は、京の有名老舗など20店の出店があり、多くの買い物客で賑わいました。

今年も多くのお客様にご奉仕ご協力をいただきました。感謝申し上げます。

- 〈お茶席・点心席奉納〉 (ご協力)
  - 裏千家前家元 千玄室様 (株)織部設備工業
  - 〈お茶席奉仕〉 岸野電気
  - 淡交会京都南支部様 松風園
  - 〈点心席奉仕〉 西村工務店
  - 本家尾張屋様 (有)林屋電気商会
  - 〈箏曲奉仕〉 (株)藤田造園
  - 錦綾子社中様 (株)ワコールホール
  - 〈雅楽演奏・王朝舞奉仕〉 デイニングス
  - 下鴨古楽会様 (敬称略・五十音順)



### 下鴨神社 京都学問所だより



前号でお伝えしました鴨社資料館秀穂舎ですが、修繕すべき所が多岐に亘ったため、工期を延長致しましたので、開館の予定が十月となりました。ご支援をいただいております皆様にはお待たせしまして申し訳ございません。

この秀穂舎開館記念の特別企画展は、本年が没後八〇〇年となる鴨長明(一一五五～一二二六)に関する資料を集めました「没後八〇〇年 鴨長明資料展」を開催いたします。

過去には、当社の氏人たちが、五五〇年祭(明和七・一七七〇)、六〇〇年祭(文化九・二八二)を斎行しています。昭和十年(一九三五)には、作家の佐藤春夫や京都帝大の小川寿一らが中心となって、日野の法界寺にて鴨長明七二〇年忌の法要と資料展を、日野山の方丈石の前では講演会を開いています。

実はこの頃、長明さんの没年に関して諸説あったため、当社の氏人の梨木祐為(一七四〇～一八〇二)の説(建保元年説)に従っていました。しかし、昭和十六年(一九四一)、近衛家陽明文庫に禪寂(？)一四〇・日野に招待した人物)の『月講式』という古文書が所蔵されていることが発見され、この中に、長明さんは建保四年(一二二六)の閏六月に亡くなったと記されていたので、没年の年月が確定しました。



鴨長明肖像画

長明さんが亡くなって八〇〇年になる現在でも「方丈記」をはじめとする書物が世界中で読まれ続けています。この機会に秀穂舎に訪ねていただき、長明さんの思いに触れていただければ幸いです。

### 第26回 糺の森市民植樹祭

～未来の糺の森のために～

今年も4月29日(金)の昭和の日に開催。当日は季節外れの寒さとなり、例年の半分の約200名の参加となりましたが、糺の森後継樹のムク・エノキ・カツラ・ケヤキ・モミジの樹齢2～3年の苗木500本を植樹いたしました。また成木の献木は21本(モミジ8本・ケヤキ1本・カツラ7本・エノキ2本・ムク3本)をいただき、献木者の皆さまに植樹をしていただきました。

式典では千理事長様、新木宮司様からご挨拶、山田京都府知事様からご祝辞、また財団理事・学術顧問で京都学園大学教授の森本幸裕様から植樹のレクチャーをいただきました。



運営にあたりましては、藤田造園様より苗木500本をご寄贈いただき、また林屋電気商会様・藤田造園様には設営等にご支援ご協力をいただきました。ご参加、ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

### 春の糺の森コンサート 「音の森」開催

4月は「SHOKI SAI Saxophone Quartet」ソプラノ・アルト・テナー・バリトンのサクソスカルテット。5月は「秋の歌と弦楽コンサート」バリトン歌手の落合庸平氏の歌唱と弦楽四重奏。6月は「初夏のバイオリンコンサート」後藤學氏によるバイオリン演奏。春から初夏の森の中で楽しく時間が過ぎていきます。秋のコンサートもご期待ください。

